

巻頭言 「時間の捉え方と満足度による価値の追求へ」

相談役 野口 雄司

医療経済領域では様々な手法により経済評価が行われており段階的手法として「費用対効果」Cost-effectiveness（投資対効果）分析もその一例であり、かけたお金に対してどのくらいの価値、効果があったのかなど主に生産性に重点が置かれたものでした。

その中でかかる「時間」というものをどのように評価軸に取り入れるか、大きな視点となっていた。

改めて「時間」というものを考えると、本来「価値創出」のための一つの大きなとらえ方であるといえるが今まで表立って議論はされてはこなかった。単に「物理的時間」ととらえるか「心理的時間」あるいは「価値創出時間」ととらえるかが重要といえる。

まさに価値の源泉としての「無形資産」そのものといえる。

さて日常生活の中ではコストパフォーマンス（cost performance）「コスパ」という表現が一般化しているが

最近の若者の間で略称として「タイパ」とか「タイサ」という表現が多く使用されているようである。

「タイパ」とはtime performance（時間対効果）

「タイサ」とはtime satisfaction（時間満足度）

とのこと。

「タイパ」では主にZ世代などに意識されているという。かけた時間に対してどのくらいの効果や、価値があったのかを指す「時間対効果」のことだ。「コスパ」との違いはその対象が「コスト（お金）」か「時間」かとの違いがある。

一方「タイサ」は「タイパ」でいう「成果」に「満足度」が付随するということ。満足度の高い時間を過ごせば、それは「満足度の高い時間」ということになる。

時間に対する感覚は、人によって違う。時間と向き合うとき、私たちが重視すべきなのは、「主観的な時間の捉え方」といえる。

そして私たちが幸せな毎日を過ごすために重要なのは「時間満足度」ではないか？ということに行きつく。

日常どんなに効率よく時間を使いこなそうと、時間には限りがある以上、時間に対する既成概念を取り払い、「時間」に対する本質から私たちと時間の在り方と使い方について価値と置き換えられるものは何かを考えてはどうか。

さて「神奈川放友会」活動18年を迎え、その魅力づくりについては特に会員数の鈍化や高齢化に伴い常に大きな課題となっている。

「会」への魅力度や参加への満足度はどのように変化しているのだろうか。

先の総会でも、会を継続させるためには、今までの運営に偏らない新たな運営法を考える必要があると指摘されている。

今までもその進化の為の提言等がされ、さらに新たな取り組みも行われてきた。

しかしながら会の参加者や協力者も限定的であり会員各位の年齢や気力、興味の方向性も変化・多様化している。

今までの活動の価値は、社会への大きな貢献とは別に放射線領域の経験者だからこそ貢献できる地道な活動は可視化され称賛されるものであり、積み重ねていくべきと感じている。

一方で、会員の声を身近に接することが少なく知的情報・知的好奇心をくすぐるのみならず一人一人の生きざまなど、年を重ねるごとに興味の分野も変節することへ接する機会に注力してもらいたいとも感じている。

先日個人的であるが同窓生から連絡があり、年齢と共に「会いたい」「今どうしてる」「断捨離は」「生甲斐は」「まだこの世を楽しむぞ」・・・など生きてきた実感となつかしさと、人それぞれの「時」の経過に感謝しつつ誰かに聞いてほしいという欲求も垣間見えた。

人生いくつになっても新たな見聞への興味は人生への活力にもなり、人との輪をさらに豊かにするものです。

常にどんな形であるにせよ参加しているという、実感や意識づけを継続的に発信する環境づくりに工夫も必要なのかもしれない。

そこで会員全員が一同に集まる場面もありかも。ニュースレターの「みんなの声（近況）」の在り方も全員参加による特集もありかも。講演でも会員による発表会もありかも。テーマを設定の上での意見交換的なものもありかも。

・・・とにかく会員各位との顔と声に接したい。・・・

限られた時間を共に共有することの意義を今創出したいものだ。今こそ「時間満足度」を意識する時かもしれない。これからの生き方をどう演出するかの一助を提供する会に参加しているという実感は会の継続性にも大きく影響するものではないか。

会員だからこそ「とき」を共にすることによる満足度、仲間内で「人生は時の旅人」がキーワードになっている。「時」の恵みをもっと全員と共有できれば幸いである。

私的な捉え方ではあるが、会の規模等を考えると知的好奇心を満たす活動の進化や全員参加型の場の設定や会員の声を広範囲に共有化できる在り方を模索することに期待したいものだ。